

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和7年2月13日(木) 開 会 午後 4時00分
閉 会 午後 5時20分
2. 会 場 茅野市議会棟 第3委員会室
3. 出席者 市長 今井 敦 教育長 山田 利幸
職務代理者 矢島 喜久雄 教育委員 若御子 雅英
教育委員 竹村 節子 教育委員 伊藤 美奈
永明中学校長 矢崎 知広 宮川小学校長 両角 祥子
出席職員 こども部長 五味 正 生涯学習部長 上田 佳秋
企画部長 小池 俊正 企画課長 大蔵 健司
こども課長 北澤 賢一 幼児教育課長 笹岡 俊江
学校教育課長 渡辺 雄一 生涯学習課長 矢嶋 浩行
文化財課長 小池 岳史 スポーツ健康課長 河西 茂廣
教育総務係長 春日 雅彦 教育総務係主事 小池 智也
4. 傍聴者 1名

茅野市総合教育会議次第

令和7年2月13日（木）
議会棟第3委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）夢を育みなりたい自分を見つける生き方の探究について

（サブテーマ）自分の人生、自分たちのまちを思い描く

（2）その他

5 閉 会

○学校教育課長

ただいまから、茅野市総合教育会議を開会します。

本会議は、茅野市総合教育会議運営要綱6条に基づき、公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○全委員

異議なし。

○学校教育課長

初めに今井市長からご挨拶を申し上げます。

○市長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

さて、こどもを取り巻く環境はどんどん変化をしていき、その中で課題もたくさん出てきています。

茅野市だけ見ても、公共施設の利用料や部活動の地域移行、学校の適正規模検討など様々です。その議題を1つ1つ議論することも大事なと思いましたが、やはりこどもたちのための教育とは何かと考えればこどもたちが夢を持って生きていけることではないかと思います。

今回、キャリア教育というテーマでも話し合いができればと思いますが、話が多岐に渡ると思いますので、ぜひ、ざっくばらんに色々なご意見を聞かせていただいて、茅野市の今後の教育、これから進むべき方法を模索できればいいかと思います。

○学校教育課長

この後の議事進行については、市長にお願いしたいと思います。

○市長

今回の議題は、夢を育みなりたい自分を見つける生き方の探究について、ということでも、現在の取り組みについて説明をいただきます。

○教育長

今までの経緯と、具体的な取り組みについて宮川小学校と永明中学校からご説明します。

キャリア教育といえば、従来は進路指導、或いは職業選択教育という意味合いが強くありました。ただ、今考えているのは今までの教育とは少し違って、平成28年に中教審答申で、本日お持ちしたキャリアパスポートをめぐって議論される中で、キャリア教育はこどもたち一人一人の生き方、生きるための能力をつけていくものだという方向が出され、平成30年中教審答申で、キャリア教育のあり方は、職業体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとするのではなく、また社会への接続を考慮せず次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではなく、さらに職業を通じて未来社会を作り上げていくという視点に乏しく、既存組織のこれまでのあり方を前提に指導しているとしています。自分たちでまちをつくっていく、自分たちで未来を作っていくという視点ではなく、大人になったらこの会社に入ろう、職業につこうということを前提に指導が行われているということです。

また、働くことの現実が必要な資質能力につなげていくという指導が軽視されてきたので、という反省の上に立って、児童生徒が学ぶことと自己の将来との繋がりを見通しながら社会的に、また職業的自立に向けて必要な基盤となる周知能力を身につけていくことがキャリア教育

であり、将来生きていくための力を幅広くつけていくことが必要だとしています。

茅野市の場合は、平成31年に1年先取りする形で、1つの教育方針を「生き方教育」と定めて、平成31年の5月から本格的にキャリア教育を開始しました。

今日見ていただいているキャリアパスポートも、県や国の動きよりも約2年先取りして実施してきました。

そのような教育を展開する中で、今日は小学校では宮川小学校、中学校では永明中学校のキャリア教育の様子を発表していただきます。

先ほど市長が言われたように、本当のキャリア教育は、一人一人の能力やまちづくりに関わってくると思います。

コロナ禍で一時中断してしまった経緯はありますが、キャリア教育の内容について、初めに宮川小学校から説明していただきます。

○宮川小学校長

宮川小学校の宮川ドリームについてご説明します。

教育のねらいとなりますが、茅野市の教育目標「21世紀を切り拓く、心豊かでたくましくやさしい夢のあるこどもの育成～自分の人生、自分たちのまちを思い描く教育～」を受けています。

宮川小学校のドリームゼミは、生き方教育、キャリア教育のことですが、「こどもたちが夢と輝く未来を見つける時間を」としています。

ねらいは3点あります。

1点目は、ゼミを通じて地域を知り、地域を愛し、地域を誇りに感じる心を育む。

2点目、地域に根づいた企業の方々に講師としてご協力いただき、地域を支える職業と人の生き方をする中で、自分の生き方を学ぶ時間にする。

3点目、子どもたちの未来に対する期待感への種まきをし、夢と希望を膨らませる。

こちらは縄文のビーナスプラン1に当たる部分となります。

長峰中学校区の特色として、小中一貫教育の目指す姿は、「夢を育み、なりたい自分を見つける探究」としています。こちらは縄文のビーナスプラン2にあたります。

今年度の宮川ドリームゼミは、10月の18日に行われました。次の資料ですが、宮川小学校の生き方教育の計画になっており、1枚目の中ほどのところ、生き方教育で育成する能力、身に着けたい力となっています。大きく4つ、記載の通りとなります。

A3の資料をご覧ください。最初に、宮川ドリームゼミの各職業について、このようなブースを設けますということを用意して、こどもたちにやりたいことをいくつかグループ単位で選択していきます。ブースは全部で30ブースありました。

もう一部の資料は、感想等が記載してあるものを用意しました。消防署では、実際に服を着せてさせていただいたり放水を見せていただいたりしました。裏面10番新聞記者ですが、こどもからの感想で、日記を書きやすくなりましたという感想がありました。15番のクリーニング屋では、しみ抜きの方法や服のたたみ方を学んでいました。

12番の美容師では、マネキンをご持参いただき、実際にカットさせていただくという大変貴重な体験をさせていただきました。

次ページの文化財課の皆様には、文化財保護について教えていただきました。23番の自動車整備では、写真のように実際に車の整備体験や、車を押して重さを体験しました。27番のダンボール製造では、写真のような、災害時のベッドを実際に組み立てさせていただき、人が乗っても大丈夫だということを体験しました。28番ではJRの方に来ていただき制服を着させていただきました。電車が好きな児童は特に喜んでいました。

このように、たくさんのお仕事を体験させていただき、自分が住んでいる地域にこんなに多くの仕事があるということがわかりました。

○教育長

永明中学校の様子をお願いします。

○永明中学校長

資料をご覧ください。最初にありますのは、進路指導係としての生き方教育について記載しています。またご覧ください。

2枚目ご覧ください。永明中学校で大事にしていることとして、今年度4月から、永明中学校では永明小学校と施設一体型の校舎で生活を始めました。

そして、永明中学校区、米沢小、永明小、永明中を含めて、小中一貫教育としてどのような子どもを目指すのかという話をしながら、日々生活をしています。

まずそこからお話をさせていただきたいと思います。茅野市の教育で目指す「みんな同じから一人一人の多様性の力を伸ばすことを目標とした教育へ」という方針を受けながら、我々としては、「相手に生きる私」ということを目指すことも像としています。なかなか難しい話ですが、ただ相手にしてあげる、してもらう、そういう関係ではなくて、相手とともに活動する中で、相手の喜びを自分の喜びできる子どもにしたいなという思いで、その具現を目指しています。

では、具体的に何取り組むかということで、とても広い校舎を作っていただきました。また学校の中心にあるメディアセンター、そういったものを生かしながら、何ができるかと考えたときに、下のabcの掲げる読書図書館教育や調べる学習、縄文・市民科の探究的な学習、そして生き方教育、こういったものを柱にしながら、少しずつ1歩進めています。

今日の議題は生き方教育ですので、裏面生き方教育についてお話をさせていただきます。

実は先ほど教育長先生から職業選択学習というお話がありましたが、我々中学校としては出口というのもあり、(1) コロナ禍で職場体験学習が軒並みできなくなりました。その時の発想は、高校選択に向けて職場体験をどうするかという話でありました。当時にコミュニティスクールの会長に相談させていただいたところ、茅野市の企業に行くことができなければ来てもらえばいいという発想で、非常に協力していただき、茅野市のそれぞれの企業に学校に来ていただくということがスタートになりました。

第1回目が終わり第2回目、令和4年度に私はこの学校に赴任して生き方教育、そしてジョブギャラリー キラッと茅野を実施しました。

私は、依頼をした全企業に直接出向いてお願いをしました。それぞれの企業の皆様の熱い思い、ポテンシャルを強く感じました。企業やコミュニティスクール関係者含め様々な方にご協力いただきながら今年度で4回目の開催ができています。

(4) にありますが、コロナが収束して、今年度は今までは職場体験できなかった中学1年の段階で実施しました。そして、小学校6年生にも一緒に参加するようにしました。それを受けて中学2年生で、今度は自分の意思を持って選んだ職場での体験を経て、中学校最後の3年生では自分のキャリアとしての生き方をまとめるよう取り組みました。

縦の繋がりを考えて、茅野市の持っている技術力は世界に負けないポテンシャルがあることや茅野市のことを考えて、また企業のことを熱く考えている人々に出会うことが、自分たちが生きていくまちの未来を描く上で非常に大事だと私は考えて、そういった中で今年度整理してきたのは、縦の繋がりとして小学校6年生と中学1年生が、そのような人や物に出会うことを大事にしました。

3として学校長の思いがありますが、今話をさせていただいたとおり自分の生き方を見つけるきっかけになって欲しいという、非常に我々としては大きな企画です。

地域の皆様のお力を借りながら、地域の力を見つめて、やがて都会へ行ってもいいと思っています。ですが、そういう目を養い地域を外から見た中で、また戻ってきてくれたり、地域の企業に勤めたり、地域を大事にできる気持ちを養いたいと考え、今年度も参加企業すべてに直接依頼させていただきました。

資料に学校だよりを添付していますが、その中で介護施設のやすらぎの家では、相手の身になって考えることができた。という感想があり、相手に生きる私を育む第一歩なのかなと感じました。

JAの所では、今農業の担い手が少なくなっている中でどのようにすればよいのか、というお話を聞きながら、自分事として考えている生徒が写っています。

資料の中にいくつか感想を入れましたが、平出建築環境設計工房の所では、こんな良い校舎を作るためには、沢山の人が協力し合わなければいけない。だから感謝して使いたい。といったような感想もありました。

裏面右上のオーク製作では、社員の方に、技術について熱く語っていただきました。

真ん中右側のハマツール様では、こどもよりも熱くなって作業を披露する社員の方がいて、ものづくりへの熱い思いを感じました。

テンホウフーズでは、お金ではなくお客様を笑顔にするために働くことに情熱を燃やしている社員の方の話を聞く中で、生徒からは普段母の料理を無表情で食べているけれど、美味しいものには美味しいとリアクションをすることが大事だと思った。という感想がありました。

このように、ただ職業を見るだけではなくて、自分の生き方を考えるきっかけとなるイベントでした。この生き方教育をとおして相手に生きる私、相手の思いを感じられるこどもに育てほしいと思っています。

○市長

資料を見ていただきながら意見交換に入ります。

○教育長

このキャリアパスポートは、小学校から中学校へ引継ぎ、中学校の場合は高校で活用していただければ、高校へ引き継いでいくものとなっています。

○市長

小学校と中学校のキャリア教育の違いはあるのでしょうか。

○教育長

小学校では体験に重きを置いています。

中学校では、自分の生き方につなげていく教育を行っています。

○市長

小学校と中学校のキャリア教育それぞれで、感想やご意見をいただければと思います。

○矢島職務代理

今、それぞれの学校から発表がありましたが、私が関わっている金沢小学校では、150周年の記念としてこのキャリア教育を行いました。1年生から6年生まで縦割り班で、10のブース

を開設して、そのうちの3ブースを回る体験を行いました。

今年度は、コミュニティスクールの役員皆様がブースの組み立てを担当して、同様の活動を行いました。

この取り組みの中で個人的に感じた反省ですが、体験が主体となって活動を行う中でその仕事への思いや願いへ目が行かず、先ほど説明のあった将来の夢や希望について考えるところまでいけない児童をいたのではないかと反省しています。

やってみて、作ってみて面白かった、美味しかった、という感想に留まってしまっていたので、次年度も開催の予定ですが、仕事に対する思いを企業の皆さんに熱く語っていただいて、こどもたちが将来の夢を持つ参考になるように取り組んでいかれたらいいと思います。

○市長

ありがとうございます。体験の感想が先行してしまうことは、よくわかります。

今回の議題とは少しそれてしましますが、コロナ禍が明けた去年から年3社ほど市内の業者を視察しています。

視察した企業の中では、全体の7割が子育て世代の女性社員の企業もあり、学校行事などのイベントにも社員同士協力して融通を利かせているとのことでした。

楽器を作成している企業では、ギターを一本作るのに三か月の期間を要するとのことで、社員は80人ほどいらっしゃるとのことでした。

県外からの若いお客さんの注文も多く受注しているようでした。なぜこの地で製作しているのかを質問したところ、もともとは北海道で製作をしていたが、乾燥した空気等の制作するために必要な環境に適したこの地で製作しているとのことでした。

実際に視察して、作業を見学したり、社員の方と話をしなければ知り得ない大切な情報を知れたと思います。

諏訪東京理科大学の学長と話をしたときに、今のこどもは親の影響がとても大きい。なので、先ほど話した企業の思いや特性について親が知っている事がとても大切だとおっしゃっていました。

また、今どの企業でも人手不足が深刻となっていますので、こどもたちに企業の魅力を伝えるチャンスがあれば積極的に協力してくれると思います。なので、学校やコミュニティスクールの皆さんとしても、積極的に企業に声をかけていただければと思います。

若御子委員お願いします。

○若御子委員

小学校から中学校、さらには可能であれば高校と引き継がれていくこのキャリアパスポートは、生徒児童の生き方を考えるうえで非常に大切だと思いました。

具体的に説明を受けたドリームゼミやジョブギャラリーなどの企業側に来てもらう体験受授業は、生徒が企業へ出向いて体験をするより多くの体験ができると思うので、非常によい取組だと思いました。

この体験を通じて、思い描いていた将来の夢が変わるほどの体験をすることもあると思います。少なくとも自分がこどものときはなかったので、非常によいと思います。

私の会社では、1000分の1ミリ単位、1ミクロン単位で部品を作っているのですが、説明会や面接、新入社員にこの説明をすると、とても驚かれるのと同時に、部品を使う製品の事も含め興味を持ってくれます。こういったことを説明できる機会が説明のあった体験授業などであれば、自らの事業内容を説明したいという企業は沢山いるのではないかと思います。

○市長

身近にこのような話ができる人が沢山いるので、積極的に声をかけられればよいと思います。また、そのような企業の情報についても、市を通じて学校へ情報共有できれば良いと思います。

伊藤委員お願いします。

○伊藤委員

キャリアパスポートを拝見しましたが、自分の将来について考えるきっかけとなる非常に素晴らしいものだと思います。

このキャリアパスポートは、いつから始まったのですか。

○教育長

令和元年に一部の学校で試験的に始め、令和2年に全市で開始しました。翌年、県から全県の学校で作るような通知が出されました。

○伊藤委員

私たちがこどものときは、このような自分を見つめるようなしっかりとした仕組みはなかたので、良い学びだと思いました。

このように、受け入れてくれる企業があるということを知っていれば、将来親元を離れ、都会や別の地方へ出ていった時でも、帰ってこられるという安心感があると思います。

○市長

今の若者の働き方は、一つの企業に勤めあげるというのではなく、キャリアアップを目的として、職を変える事が多い、そんな中での一つの選択肢として、帰りたくなるような街にしなければいけないと思うと同時に、それを発信していかなければならないと思います。

○伊藤委員

今こどもたちは説明があったような勉強をしているけれど、子育て世代の大人たちにもこの情報を知ってほしいと思う。

○今井市長

竹村委員お願いします。

○竹村委員

キャリアパスポートの中に自己評価の項目がありますが、学校として注意している点がありますか。

○永明中学校長

それぞれの評価が良い悪いではなくて、自分を見つめ直したなかでの評価ができるように心がけています。

○竹村委員

評価項目については、市独自に考えられているのですか。

○教育長

文科省で出されたものを参考にしていますが、学校独自で作成しています。

さらに、評価をするタイミングは、各校ごと特性があります。

例えば、ある学校では、キャリア教育の前後だけでなく、国語の授業で生き方について触れた時に、パスポートを活用することもあります。

○竹村委員

体験授業の延長として、親御さんや祖父母の職業について興味を持ち、何の職業に就いているのか、だけでなく、どんな思い働いているのかという所まで研究してくれるこどもが増えればいいと思います。

この学習をとおして企業からの熱い思いを受けるだけでなく、こどもの方から企業の研究に熱い思いを持ってくれればいいなと思いました。この話に関わって、学校教育課長の体験が非常にこどもにも、企業にも良い影響を与えていると感じましたので、是非発表をお願いします。

○学校教育課長

私は、地域の野球クラブの指導者をしていますが、この度数社の企業とスポンサー契約を結ばせていただきました。その際社長さんから、是非工場の見学に来てほしいというお話がありました。野球の活動だけでなく、クラブを応援してくれる地元の企業様が、どんな仕事をされているか、この地域にどんな仕事があるのか、見学する機会を作っていきたいと考えています。

○竹村委員

自分たちを応援してくれている人を知ること、企業の方がスポンサーとして支援しているこどもたちの様子を知れることはとても大切で素敵なことだと思いました。

併せてこの事例では、それぞれが自発的に動いているということが非常によいことだと思いました。

○市長

小学校、中学校で分けて議論しようかなと思いました。全体の感想という形でいろいろお話がある中でやはり我々の思いは、できればこの地域にまた戻ってきてもらいたいという思いがありますが、一方でこどもたちは無限の可能性があって日本へ、世界へ羽ばたいていく人たちもなければいけないわけで、その辺は学校現場だと、分けるわけにはいけないので、どのようにお話をされて、ご苦労されているかお話があればお聞きしたいです。

○永明中学校長

関係するかわからないですが、中学3年生の生徒が校長先生に会いに来てくれることが結構ありまして、そこでよく「入れる高校に入ろうとするな、入学して何をするのかで高校を選びなさいと」よく話をします。

そこでジョブギャラリーの話に戻りますが、茅野市の企業のすごさを伝えていく。市長のお話でありましたが、こどもたちが知らない業者のすごい所を知った時の表情を積み重ねていくことで、夢を広げ自分の生き方に返してあげたい、そして茅野市のポテンシャルの高さにつなげていきたいと思います。

○市長

高校での教育はどうですか。

○教育長

茅野高校はキャリア教育に力を入れているようです。

永明小中学校区の一貫教育で生き方を探る教育に取り組んでいるので、高校とも連携していければと思います。

今、校長先生の言ったことに加え、人の生きざまを知るってということで、これは私自身も勉強になりましたが、テンハウフーズの方が2つぐらいの学校に来てくれて、とても熱心にお話をしてくれました。そういった環境にごく自然な形で触れていけるのではないかと思います。

○市長

小中高と継続性が結構大事ですね。

高校生ぐらいになってくると結構具体的な話になってくるのかなと思います。意外と学生、生徒自身が、どのようなコースがあるかが知られてないというのがあるのかなと思います。

話が脱線しますが、先日南信工科短大へ見学に行ってきました。あそこは県がやっている専門学校で、厚生労働省の管轄です。いわゆる奨学金制度が何も無いですが、地元就職率ほぼ100%で電気と機械の2学科で、伊那にあります。諏訪圏域からの生徒も多くいました。

地元の企業にほぼ就職していて、企業によっては、2年間の学費を全部出してくれる会社などいろいろな形でやっていて、実はそういうことを案外子どもたちが知らない。またそういう、支援策みたいなものを行政が作った方がいいなと思い帰ってきました。こうした形の支援策は茅野市にもありますがうまく改良して、企業からも少し支援をいただきながら、市内企業に就職したら、その返還をしなくていいというような制度だとなんか作ってあげると市内で就職を希望する学生も増えるのかなと思います。

意外と知られているようで知られていなくて、単純にこの大学行きたいみたいな話になりがちですが、企業側もCADなどを使える学生を欲しがっています。

中央病院にも看護専門学校があり、卒業して5年間働けば奨学金が免除されるものがあります。ただ、意外とそういうことが知られていなくて、伝えていってあげることも大事なかなと思います。親も知らないし子どもも知らない状況なので、制度みたいなものや意外とコースもあるよということを伝えていきたいと思います。

看護学校の学園祭みたいなものに行きましたが、一生懸命血圧を測ってくれたりしてくれました。そういった姿を子どもに見せてあげることも良い経験かなと思います。

他の委員の質問や説明を踏まえて、2巡目お願いします。

○矢島職務代理

昨日の新聞ですけど、こういう記事が載ってまして、「高2の息子に夢や目標なく」これは、こういう現状だけど、皆さんご意見くださいという欄ですが、「高2の息子に将来の夢や目標がありません。そのため、勉強も宿題以外はテスト前にする程度です。目指すものが見つかったときに備えて、日頃から勉強するようには言っていますが、帰宅すれば、ゲームやインターネットで動画を見る毎日です。」というようなことで40代の匿名希望さんからですが、今日話されたようなことを積み上げていけば、こういった生徒がなくなるのではないかなと思います。ぜひ夢を持たせるような機会を積極的に取り組んでいただきたいというのが、私の思いであります。

それと、これだけしっかり組み立てられているので、茅野市の教育の特色として、どこの学校の児童生徒も宮川小学校や永明中学校のような体験ができるような、できればこのイベントのときに学校を開いていただいて、それぞれの教職員が見学できるようにしていただき、私も宮

川小、永明中学校見せていただきたい。子どもの姿、子どもの目の輝きなどは、直接目で見る
ことが大切で、これをとおして市内の学校を引っ張っていいっていただければと思います。

○教育長

東部中学校や金沢小、永明中学校にお世話になって米沢小などはすでに体験をしてもらって
います。

今後の課題として、各校に来ていただくことは限界があるので、企業側にも負担が少ない方
法を考えていきます。

○若御子委員

先ほどから話にあるとおりで、いわゆる生き方教育の中でのキャリア教育っていう形の中で、
今回小学校、中学校の話をしているので、少し的外れな話になってしまうかもしれませんが、

色々なことを経験して、ポジティブという意味でのやりたいことをやるというのはすごくい
いことだと思いますが、ある程度まで行くと理想と現実というものを教える必要があると思い
ます。私の娘が、今高2で来年は受験生です。昔から魚が好きで、魚の研究がしたいと言っ
ていて、やりたいことがあることは良いのですが、コロナ禍とかの状況を見たときに、水族館な
どは収入もなくなって、廃業するとか、そもそも本当に将来それで飯を食べるのかという現実
的なところを親の立場になると考えてしまいます。

自分は会社を経営していて、様々な会社の様々な状況を知っている中で、先日も話があっ
たのが、友達にIT企業の社長がいて、とにかくITは今人手不足で、日本人でエンジニアがいな
いのでベトナムの協力会社から応援に来てもらって、プログラミングを組んでもらっているよう
です。ベトナムの平均水準をはるかに上回る賃金を払ってでも手伝ってもらっているようです。

あくまで仕事は仕事であって、幸せな人生を送るための、お金を稼ぐための手段として仕事
をしていると考えるならば、好きなことばかりというよりは、生きるためにどのような仕事を
選ぶのがいいのかという切り口の教育も、小中学校には早すぎると思います、必要だと思
います。

○市長

好きなことでなかなか飯は食えないということだと思います。

本来親がこういう話をしなければいけないと思います。

こどもから相談を受けたりしたときは、最終的には本人に決めさせるけれど、ある程度の方
向性を示してあげることは大切かもしれないけれど、これは、家庭によって大きく違うと思
います。そういった時に学校に頼らざるを得ないと思います。

○伊藤委員

私の息子2人は、大学進学出ていきましたが、就職を機にこちらに戻ってきました。動機は
単純でしたが、親の生き方を見ているなと感じます。

家は田んぼをやっていますが、高校生の頃は2人の息子は手伝うことに対してとても嫌がっ
ていました。しかし、今になってみれば、率先して手伝うようになっています。

今、家族の形態は様々で、さらに昔にはなかったこどもの病気なども解明されてきていて、
丁寧に対処していただいています。ただ、その子たちが今後大人になって生きていくための食
はあるのかと心配になります。その特性を見極めてくれる人が周りにいればいいなと思います。

○市長

小中学校は理想の社会について教えていて、大学やアルバイトを経ていく中で、リアルな社会経験していきます。いきなりこのリアルの社会に放り出されると、心や体に大きな負荷がかかってしまい折れてしまうこともあります。このギャップはどこで埋めるかが問題で、理想は持つべきですが、現実とも向き合わなければいけない、それを社会にでてから向き合うのではなく、学校で教えることは、恐らくとても大変なことだと思います。

○伊藤委員

これだけの自分を見つめる学習をしているこどもたちであれば大丈夫ではないかと思います。

○市長

ある意味これも挑戦で、やってみなければわからない部分が多くあるので、都度修正してより良いものにしていきたいです。

市内の学校は、常に挑戦していると感じます。この挑戦を生かしてよりよりまちづくりに繋がっていければと思います。

○竹村委員

10年前、ある事件がきっかけでこどもたちに「涵養」という言葉について、どうしても教えたいと思いましたが、とても難しい言葉なので、歌を作りました。ご存じでしょうか。

— 「涵養」という言葉を使った歌を発表 —

これには手遊びがあって、こどもたちにお話を作って「大清水」について10年前に伝えました。こどもたちは、しばらくの間この歌と手遊びで遊んでいました。

こどもたちが大人になった時に「涵養」という言葉の意味を調べ、私の伝えたかった大清水は無限に水が湧いているのではないので、今後に残していくためにどうすればよいのかということに気付いてくれました。

今回のキャリア教育の中には農業や林業がなかなか入ってこないですが、茅野市と考えた時に、やはり大事だなと思っていても、こどもたちに教えるだけでは染み込まないです。どうしたらいいかといえば、当時はストーリーと歌、手遊びを使うことで染みました。

それから10年経ちました。その子たち20代で先日会った子は、市長が言ったようにお父さんの一声ですっと工学系の学校を出て茅野市の宇宙開発の会社に入りました。そこから今度はJAXAに行くそうです。その子に大清水の話をしたら、知らないと言われました。この子は、先ほど紹介した歌を作る前の子だったので当たり前だと思います。

しかし、大清水の歌を教えた子どもたちは、何か仕事をするときや事業を起こす時には、無意識のうちに“水が出なくなってしまうから山を崩さないように”という意識を持っています。

この時、私たちが10年前にやっていたことが染み込んだのだなと思いました。

先日見たテレビでは、農業や農村が無くなって大打撃を受けるのは教育だと言っていました。その中で、亡くなってしまっていますが、農民作家の山下惣一さんが「日本の農業は零細でだめだだめだと言われ続けてきたけれども、世界的に見れば決してそんなことはないのです。もっと自信を持ちましょう。専業でも兼業でも半農でも半Xでも日曜百姓でも家庭菜園でもよいのです。すべて小農です。小農だからよいのです。強いのです。楽しいのです。豊かなのです。そして、強い農業が生き残るのではなく、生き残った農業が強いのです。」という言葉を残しています。小農という考え方は初めてでしたが、自分もそうだなと思います。半Xは専業でも兼業でもない心を豊かにするために農業をする生き方の事だと思います。この考え方は、茅野市

の強みだと思いました。移住者にしても荒れた土地を整備して自分の食べるものは自分で作る商売ではない農業と食いぶちは別につくるという生活ができるのが茅野市の強みだなどと思いました。

大きな組織を組むのではなくて、一人一人の住民が食べものや薪などを自給自足して、その住民同士が繋がりを持つことで、人口減少が進む社会にも対応できると思います。

そしてこう思わせてくれたのは、学校教育課長のお話でした。主体的に動くことで、協力してくれる人が必ずいると思います。

農業系の仕事について知ることは、茅野市民にとっては必ず必要なことだと思います。例えば、耕作放棄地を学校で農業体験として整備することはどうでしょうか。そうすることで、子どもたちは、農業の知識を得るために農家の方々とコミュニケーションをとることになります。そこで収穫したものを売買してもよいということになれば、お金についても学ぶことになります。さらに収穫を効率的にと考えれば、気象についても学んでいくと思います。このように自ら率先して学んでいくことができる環境は整っていると思いますが、どうでしょうか。

○永明中学校長

特別支援学級では作物を管理したり、小学校では田んぼを管理したりしています。

○竹村委員

それは、管理された土地だと思います。

耕すのに必要な農具などを扱っている製造者について学ぶなどの学習ができればと思います。

○永明中学校長

できるとすれば、探究の単元かと思います。

例えば、地元の耕作放棄地をどうするかというテーマにすれば先ほどお話されたような学びを展開できると思います。

○竹村委員

そのような学びを展開することが、茅野ではできると思います。

○市長

茅野市では、農業・林業はとても大切な視点だと思います。茅野市では、「農ラボ」という30～40代の若手の農業法人、個人の8人くらいの集団があります。首都圏や中京圏では、就農フェアというイベントがあり、そこへその集団に出いただき、茅野市で農業をやるメリットをお話してくれています。

例えば、地球温暖化で今茅野はリンゴの適地になっています。逆にセロリは今の標高よりももう少し上に持っていかないとそろそろ適さなくなると言われています。

いずれにしてもこの本州の中で、標高1000メートル級のところに農地がちゃんとある場所はあるようでないです。この標高1000メートルの地帯に農地があるということは強みだということを実際に農業やっている農ラボのメンバーがこれから就農したいと思っている人たちに説明をします。そして見学ツアーを開催して実際に見てもらいます。ここでは、ただ農園を見せるだけではなく家も含めた生活そのものを体験していただきます。例えば名古屋から移住してきて菊農家をやっている方がいますが、彼は山登りが好きで茅野に移住して、今菊農家をやっています。菊の育て方は地元農家の方に教えていただいています。このような体験談をツアー参加者にお話をして、移住者を少しずつ増やしています。移住した人と元から住んでいる人が

協力して、移住者を増やす取り組みをしてくれています。

林業の関係は、木葉社という会社があって、学校の体験学習には呼ばれていませんが、東京などから学習旅行で訪れる方々に体験学習をするのがとても上手な業者です。

実際に茅野市で若者が農業や林業を生業として生活している姿を是非地元のこどもにも見せてあげたいと思います。

商店街にも、若くて面白いことをしている方々沢山いて、地元の方と色々な挑戦をしています。

○矢島職務代理

教育の根本は夢を語ることだと思います。そこを上手くコラボできればと思います。

○市長

市としても今、農業や林業に力を入れ始めています。今後これらの就業人口が極端に減ってくる見込みなので、就業者を獲得することが急務となっています。これは、茅野市だけでなく日本中が同じ状況です。

○竹村委員

日本人を100人の村だとすれば、98人が農業関係でないので、2人で食料を作っている状況だそうです。

○市長

今本当に瀬戸際で、早急の対策をしなければ10年後には危機的状況になってしまうということで、茅野市でも力を入れています。

今週も麻布十番へ行って、農協と協力して花やワインをPRする予定です。ワインについても、ワイン特区の認定を受けているわけですが、やはり農業に関連する人口を呼び込もうというねらいがあります。ワインは、良いものができるまでに10年以上かかると言われていいますが、実際に市内でもワインを製造している方がいます。彼らを応援するためには、作りやすい環境づくり、ワインバレーの認定やワインの試飲会を行ったといったように意欲向上に努めています。やはり彼らがやる気になるフィールドを作ることしかできなくて、手取り足取り指示を出すことはできません。

自分の息子を見ていてと思いますが、勉強するきっかけはどこにあるかわかりません。学生時代嫌いだったのに、社会人になると急に勉強をするようになるという人もいます。

私の友人は、社会人になって漢字ドリルを始めたという人もいます。学生時代は素行が悪かったですが、社会人で営業マンとなり漢字の必要性を感じて勉強を始めたということです。

中学、高校と進学していく中で、自信を失ってしまう子たちがいますが、彼らにどうやる気をつけさせるか、どう夢を持たせてあげるのかは我々にかかっていると思います。そして夢を見つけたこどもは、急に意欲的に勉強したりします。キャリア教育はずっと続いていくと思います。

私も今市長をやっていますが、色々なことを勉強しました。人は常に勉強しますし、農業に関して言えば、科学、気象、など多くの知識が無いと、物によってはできません。そこを教えるべきだと思います。そこが勉強意欲に繋がると思います。

○竹村委員

若者からの意見でハッとしたのは、「楽しみが欲しい」という意見でした。私たちは、どん

な仕事につくか、どうやって食べていくか、ということを考えますが、それだけだと大人でも心が病んでしまう人がいます。楽しみは人それぞれですが、共通して言えることは、人と話したいということだと思います。そうすると、居酒屋が一番いいと思いますが、この辺で不便なことは、足が無いということかだと思います。そこを解決する周遊バスのようなものがあるといいと思いますが、とにかく人が楽しめる、人と会話ができる環境を積極的に整備していただけると良いと思います。

○今井市長

ありがとうございます。
他に意見はありますか。

○全委員

なし。

○市長

最後に教育長から一言お願いします。

○教育長

話は少し変わりますが、育ちあいの相談件数が約4,800件で、このうち高校生の相談が約500件、延べ件数ですが足を運んでいただいたの相談が約100件です。高校生の相談が増えてきていて、本日の不登校フリースクールの方との会議がありましたが、高校での相談体制が切れてしまうという話があって、茅野市の場合は高校生への相談体制も整えていますが、もっと相談したい生徒はいるのではないかという話になりました。

中学校と高校をどのように繋いでいくのが大変で、キャリア教育にも当てはまることだと思います。若御子委員が言ったように、高校生になれば生きていくことの現実・苦しさ直面することになります。そこでの手助けが無ければ折れてしまう子どももいると思いますので、そこでの支援を高校と協力していきたいと思います。

また、矢島職務代理が言ったように、本日紹介した学校の他に体験授業は各校で広がりを見せていますが、各校独自で開催すれば企業の方々には限界がきてしまいます。コロナ前には、市内企業の方々にプラットフォームを作って支援していただこうと考えていましたが、コロナで進める事ができませんでした。今後全体の枠作りを検討していきます。

内容面では、農業関係についてはまだ声をかけていませんでした。私個人も今の農業はとてもかっこいいと思います。これからもどんどん進化していく農業を今後学ぶ機会を作ればと思います。

○市長

委員の皆様、沢山の意見ありがとうございました。
先生方にも本日出た内容について取り入れていただければと思います。

○学校教育課長

その他で意見ありますか。

○全委員

なし。

○学校教育課長

以上で令和6年度第2回総合教育会議を終わりにします。